

OTOGAWA

おとがわプロジェクトとは——
1. 都市の持続的な経営、2. 良質な都市空間の維持・創出、
3. 民間が主導する官民連携まちづくりを目標に掲げ、岡崎市の中心部を流れる水辺空間の活用と歴史文化遺産を活かした
観光産業都市の創造とコンパクトシティの実現を目指すプロジェクトです。

f おとがわプロジェクト Q

自分たちの
まちが
で終わるまで

GRAND DESIGN

OTOGAWA
PROJECT

『OTOGAWA GRAND DESIGN Log

自分たちのまちがで終わるまで」とは、
岡崎市が主導する観光産業都市の
創造とコンパクトシティの実現を目指す
官民連携プロジェクトの記録集です。

第2号となる本冊では、

乙川リバーフロント地区で

実施した展示・投票会「おとがわキャラバン」、
姫路駅前再開発の事例から

市民が関わる公共空間の「デザインを学ぶ

「シンポジウム」、

市民参加型で事業計画を提案する
「まちづくりワークショップ」を収録。

CONTENTS

08 EXHIBITION おとがわキャラバン
04 SYMPOSIUM シンポジウム
03 WORKSHOP まちづくりワークショップ
NEXT EVENT これからのイベント

Vol.

00.2

エキシビション おとがわ キャラバン

岡崎デザインシャレット^{※1}では、参加学生が市民と行政の声を聞き、専門家らの指導のもと、乙川リバーフロント地区を活用する「A|中央緑道再生計画」と「B|太陽の城跡地活用計画」の提案を短期集中型で検討した。

おとがわキャラバンでは、さらに市民の声を汲み取ることを目的に4ヶ所の会場(岡崎市役所・籠田・りぶら・中央緑道)で移動型の展示・投票会を行った。提案に加えて中間提言書(本誌Vol.1収録)への意見を収集したところ、おとがわプロジェクトに期待する思いや不安を把握することができた。(別紙参照)

模型を前に広がる議論の輪

4つの会場で開催された「おとがわキャラバン」には多くの人が訪れ、計画案への投票やコメントの数は400を超えた。それぞれの会場によって参加者層は異なり、岡崎市役所では行政職員が中心に、籠田・中央緑道では近隣で生活する住民が、りぶらでは図書館を利用する幅広い層が足を止め、会期中に開催されたりぶらまつりに参加する地域住民やお祭りの運営に協力する方も数多く訪れていた。市役所では仕事の合間を縫って熱心に計画を話し合う行政職員の姿が、籠田・りぶら・中央緑道では、並べられた模型と提案を比べながら、にぎやかに街の将来を語る声が印象的だった。

具体的な複数の模型や提案は、漠然とした期待や不安を具体化する助けともなり、多数の意見を集めることになった。ハコモノ行政に対する不満も少なくないが、それ以上に自分たちが住みよいまちにすること、人を呼び入れられるまちにすることを望む声が多くあった。そのためにも、りぶらのように市民が主体となった活動やイベントをどのように生み出すのか、それをサポートする官民連携体制などに組み立てることができると考えられる必要があるだろう。

おとがわキャラバンは、案に賛成か反対かだけを投じる機会ではなく、建築模型を前に今、市民に議論を起こすきっかけとなっているようだ。「わたしならこうしたい!」という議論の輪が街全体へ広がることを期待したい。



in 岡崎市役所

期間 2015年9月1日[火]-30日[水]
会場 岡崎市役所東庁舎1階ロビー

中央緑道再生計画

A-1 55票 | A-2 84票 | A-3 32票 | 計 171票

太陽の城跡地活用計画

B-1 57票 | B-2 58票 | B-3 55票 | 計 170票

中央緑道再生計画では、自分たちが行きたくなるような温かみのある空間だけでなく、「人を連れて行きたくなる」世代を超えた人々のつながりを育む環境も評価のポイントとなり、A-2のアイデアに票が集まった。一方、太陽の城跡地活用計画では、「岡崎のシンボル」として、タワーの高さについて意見が割れた。「夜景と高いタワーが相まってきれい」という意見に並び、「高い建物は好ましくない」という声もあった。

in 篠田

期間 2015年10月18日[日] 12:30-14:30
会場 旧タネイビル

中央緑道再生計画

A-1 6票 | A-2 2票 | A-3 3票 | 計 11票

太陽の城跡地活用計画

B-1 5票 | B-2 3票 | B-3 2票 | 計 10票

お昼休みを利用して展示会を訪れてくれた方は、会場の目の前にある中央緑道再生計画への関心が高い。「回遊を楽しめる場になったらいいな」「お店がたくさん入って賑やかになってほしい」と住民目線の計画を望む意見があったが、「店舗はこんなにたくさんいるのかな」と実現性を疑問視する声もあった。また、太陽の城跡地活用計画や周囲の環境とのつながりから「籠田公園からジョギングできるコースがあったらいいな」「駅前とのつながりをもっと重視すべき」と望む意見もあった。

in りぶら

期間 2015年10月26日[月]-11月24日[火]
会場 図書館交流プラザ・りぶら 2Fお掘通り

中央緑道再生計画

A-1 72票 | A-2 106票 | A-3 48票 | 計 226票

太陽の城跡地活用計画

B-1 62票 | B-2 80票 | B-3 85票 | 計 227票

りぶらまつりに参加する10-40代の若い世代からたくさんの意見が集まった。「買い物やおしゃれにランチできる場所があったら嬉しい!」「子どもや障がいのある人が安心して過ごせるように」と暮らしに直結することに关心が高く、また「市民や近隣からの訪問客を大事にするようなプロジェクト」を期待する声があった。中央緑道再生計画では「岡崎のまちを歩きながら歴史を感じられたらしいのに」という意見がある一方で、「四天王像と設置場所の関係があいまいだ」という指摘もあった。

in 中央緑道

期間 2015年11月30日[月]-12月7日[月]
会場 Masayoshi Suzuki Gallery

中央緑道再生計画

A-1 7票 | A-2 4票 | A-3 1票 | 計 12票

※本会場では会場の都合により

中央緑道再生計画のみの展示となりました。

計画の対象地を目の前にした展示ということもあり、「植栽による中央緑道のつながりも国道1号線で分断してしまうのが残念!」「今のように通り抜けられる感じが好き」という具体的な意見があった。生活動線と交通動線が交わる中央緑道再生計画では、どのようにエリアの一体感を創出するかということもひとつポイントのようだ。住民や観光客にこのエリアの利用を促すためにも、「緑を大事にするのも大切だけど、もう少しだけ社交場みたいなところがあっても良いのかな」とアクティビティを要望する声もあった。

シンポジウム 市民が関わる 公共空間の デザイン

2015年8月、約30名の学生が市内外から結集して行われた「岡崎デザインシャレット」(本誌vol.1収録)。このシャレットという都市デザインの手法を欧米から日本に紹介した小林正美氏。小林氏が手掛けられた姫路駅前広場整備において、学生シャレットがどのような意味を持っていたのか、岡崎でどのように活かすべきかを学ぶ。

パネリスト
小林正美 | **Masami Kobayashi**
明治大学理工学部建築学科教授/
アルキメディア設計研究所主宰
日時: 2015年10月11日[日] 14:00-16:00
会場: 名鉄東岡崎駅岡ビル百貨店3階



きました。翌1月の2回目のシャレットでは、前回の案に寄せられた市民意見を整理し、今度は具体的なデザインではなく、重要な整備の考え方を「姫路城への眺望の確保」「歩行空間の連続による回遊性の向上」など10の提言という形で言葉とイメージスケッチでまとめました。こうしてアイデアやビジョンが見える化されることで、ようやく市民と課題が共有でき始めたのです。

判断基準を提示する 公開専門家ワークショップ

学生シャレットをきっかけに地元商店街の方たちが学生案をさらに発展させた案をつくり、市長と駅前広場整備の関連団体代表者らが一堂に会する「市民フォーラム」の場で発表しました。この案は、駅前をトランジットモール(一般車両の乗り入れ禁止)化して歩行者空間を優先するかなり大胆な案だったのですが、行政も無下にできず、2か月後、市の原案、商店街案を含む3つの案が出されました。専門家から見たら商店街案がよいのは明らかでしたが、市民の皆さんに判断基準をわかりやすく提示することを目的として、都市デザイン、都市計画、交通の専門家をお招きして、公開で3案のいい点・悪い点をそれぞれの見地から検証するワークショップを行いました。その過程をすべて記録し、景観面、交通面など多角的な見解を添えて、推薦する案を市長に提言した結果、それが現行の案となりました。

使い手となる市民にも管理する行政にも様々な意見がありますが、専門家の役割はそうした複雑な問題を整理し、学習機会を提供しながら選択肢と判断基準を示すことにあります。

まちの顔となるデザイン

駅前のサンクンガーデン(半地下の広場)は姫路城の前庭のイメージで、近代建築にありがちな白とか銀色の素材やガラスを極力使わず、お城で使われている「さび石」や杉や鉄などの素材を使い、ここに来た人が「姫路城のまちに来た」と思えるような風格を引き立てるデザインになっています。駅前はトランジットモール化したこと、整備前は26%しかなかった歩行者空間が整備後には61%にな

り、その先の商店街に流れる人も増えました。また、整備前は駅前広場で姫路城をゆっくり見る場所がなかったので、地元の木を張った「額縁」を通してお城を眺めることができる象徴的な眺望デッキをつくりました。駅前広場が質の高いデザインで整備されたことにより不動産価値が上がり、駅前再開発地区にホテルモントレやシネコンが入るなど、民間誘致の呼び水にもなっています。岡崎でも、なるべく川やお城など訪れた人が見たいものになるべく早く見せて、そこに至るまでの場所をきちんとつなげ、おもてなしの心が感じられる空間づくりに期待します。

[参考書籍]

市民が関わる パブリックスペースのデザイン

姫路市における市民・行政・専門家の創造的連携

発行元: エクスナレッジ | 小林正美 編・著



シンポジウムで先進事例として紹介された姫路駅前再開発の計画から設計、そして活用まで、一貫した市民参加による「魅力が倍増するまちづくり」の手法が学べる書籍です。

学生シャレットが投じた一石
まず、できるだけ市民の意見を聞き、一番市民が使いやすい案をつくることを目指して全国から建築系の学生を集め、「シャレットワークショップ」を2回開催しました。2008年11月に行なった1回目は、まち歩きや市民へのヒアリングを通じて課題を分析し、岡崎でもやられたように複数の計画案の模型をつくって発表しました。この時の案はまだ実現性に乏しい、ある意味学生らしいプランだったので、情報発信に努めた結果、新聞やテレビで取り上げられ、市民の関心を高めることがで

きました。



まちづくりワークショップ まちを動かす 市民提案

4つの分科会（歴史・観光まちづくり、かわまちづくり、人道橋・中央緑道・籠田公園、にぎわい創出）に分かれて、市民・民間まちづくり団体・専門家・行政職員らが各エリアの具体的な利活用の方策を探った。市民提案一覧（P.4-5）と最終発表会の様子（P.6-7）を記録する。

- まちづくりワークショップ[1]「分科会の立ち上げ」**
日時：2015年10月25日[日]13:30-16:30
会場：名鉄東岡崎駅岡ビル百貨店3階
- ↓
↓ 各分科会で市民提案を検討
- ↓
まちづくりワークショップ[2]「中間発表」
日時 2015年12月12日[土]10:00-12:30
会場 名鉄東岡崎駅岡ビル百貨店3階
- ↓
↓ 各分科会で市民提案を検討
- ↓
まちづくりワークショップ[3]「最終発表会」
日時 2016年1月24日[日]19:00-21:00
会場 図書館交流プラザ・りぶら3階会議室
ゲスト 内田康宏、泉英明、藤村龍至

市民提案ができるまで

まちづくりワークショップは、全体共有のワークショップと各分科会での活動で構成される。
● ワークショップ[1]では、テーマごとに分科会を立ち上げた。その後、各分科会で時期や会場など実施内容を具体的にし、市民自ら参加・実施したい内容を考えてきた。● ワークショップ[2]「中間発表」では、全体共有や意見を踏まえ、[A]歴史・観光まちづくり分科会では、地域の魅力を伝え、発見し、つなげる手を発掘すること、[B]かわまちづくり分科会では、川辺や水上の公共空間を利活用する手を公募事業で発掘すること、[C]人道橋・中央緑道・籠田公園分科会

では、民間で活用と管理を行う持続可能な公共空間の運用体制をつくること、[D]にぎわい創出分科会では、道路や公共駐車場の利活用を社会実験的に実施することなどをまとめた。● ワークショップ[3]「最終発表会」では、市長や専門家を含む140名強の参加者が集まるなか市民提案が発表された。本誌には、各分科会から提案された事業（=市民提案）に加え、関連するまちづくり団体が実施する事業（=連携事業）も盛り込まれている。
必要なもの、やりたいことを実現していくのは、私たち市民一人ひとりのやる気と熱意です。あなたの想いをここに重ねてみてください。



i 各分科会にて、市民提案について議論を重ねてきた。

ii こうして制作された市民提案は、最終発表会にて内田市長に提出された。

iii 多数の参加者らとの集合写真。



A

歴史・観光まちづくり分科会 「まちを楽しむ体験プログラム」

地域の魅力を伝える
体験プログラムを募集します。
【以下、プログラム例】

プログラム
ごとに
日々検討中

① 竹千代祭り

天下人になった竹千代にあやかり、子どもの成長祈願祭を龍城神社で家康公の誕生日12月26日に毎年開催する

② 菅生祭鉢船の行灯給付け体験

菅生神社の鉢船神事で鉢船（ほこぶね）菅生丸と天王丸に飾られ、花火の夜を彩る

③ 和菓子の食べ比べツアーア

老舗と和菓子屋が多い城下町の特徴を活かし、和菓子屋の若旦那がプロデュースする

④ 浄瑠璃姫と文楽鑑賞ツアー

文化（人形浄瑠璃）の起源である浄瑠璃姫が身投げした浄瑠璃ヶ淵からスタートするツアー

⑤ 歴史かたり人プレミアムツアーア

プロフェッショナル観光ガイドで岡崎の歴史を味わい尽くす

【市民提案・連携事業一覧】



C

人道橋・中央緑道・籠田公園分科会 「時代と世代と記憶をつなぐ」

共につくり、共に活かすために
以下を実施します。

⑭ 市民ワークショップ（意見交換会）

継続的に実施し、多世代の多様な利活用イメージを高める

⑮ 専門家による公開討論会

景観、交通、建築などの専門家と共に検討し、その様子を公開しながら空間デザインに展開する

⑯ 岡崎ならではの橋のデザインを提案。

⑰ 人道橋高欄デザイン

リノベーションまちづくり事業

目的 篠田エリア、六供エリアを対象に遊休不動産、低未利用地を活用し、職住兼用遊歩道の実現を目指した都市型産業の創出

主体 岡崎市リノベーションまちづくり実行委員会

⑱ リノベーションまちづくり

あいちトリエンナーレ2016連携事業

目的 あいちトリエンナーレ2016来場者へのおもてなし、公共空間の利活用に向けた社会実験、橋の建設のピューポイントの設置

主体 岡崎アートコミュニティ推進協議会

⑲ 移動式アートリビング

D にぎわい創出分科会

「乙川に繋がる にぎわいストリートの形成」

歩行者で賑わう
「昼の街」づくりに挑戦します。
【以下、プログラム例】

⑳ アートイベント

あいちトリエンナーレ2016と連動

㉑ ジャズイベント

岡崎ジャズストリートと連動

まちなか活性化事業

目的 まちなかの回遊性と活性化を図る

主体 まちづくり岡崎

㉒ 空き地の活用事業

㉓ かわまち連携事業

㉔ イベント情報集約発信事業

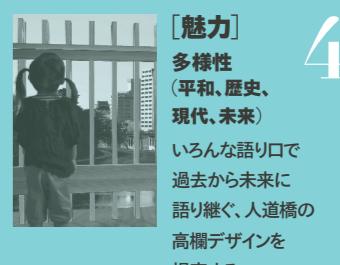
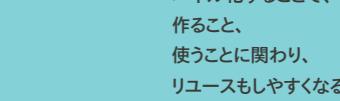
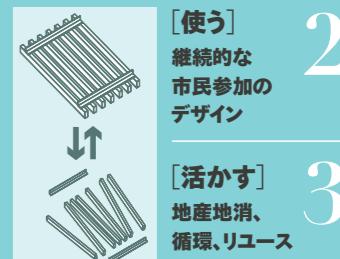
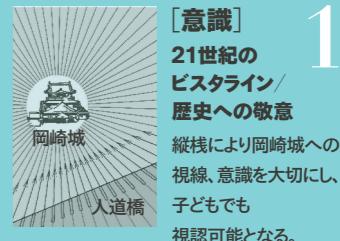
㉕ 商店組織コーディネート事業

人道橋高欄のデザイン方針

岡崎デザインシャレット・おとがわキャラバン・まちづくりワークショップ（人道橋・中央緑道・籠田公園分科会）、専門家との協議を経て、人道橋高欄のデザイン方針を次のように提案した。

【大切にしたい4ケ条】

次世代へ繋ぐ橋－共につくり、共に活かす－



B

かわまちづくり分科会

「乙川利活用提案 プロジェクトの募集・実施」

水辺の可能性を広げる
提案を募集します。
【以下、プログラム例】

2016年
8月中旬
~9月下旬

⑥ ピオトープづくり

水辺の生き物の居場所づくり

⑦ SUP | スタンドアップパドル

ボードに立ってオールで漕ぐスポーツ

⑧ いかだ競争

手作りいかだで川下り

⑨ 乙川キャンプ

オシャレでお手軽なまちなかキャンプ&BBQ

1 3月26日[土]
~4月10日[日]
2 4月29日[金]
~5月8日[日]
3 7月23日[土]
~9月30日[金]
4 11月3日[木]
~11月6日[日]
3月下旬~
4月上旬

観光船運航事業等

目的 乙川の水辺の既存資源を磨き、
魅力を高める。

主体 岡崎活性化本部

⑩ 観光船運航

⑪ 水上お花見席

WORK

2015.10.25-

-2016.1.24

まちづくりワークショップ 市民提案への 関わり方

A 歴史・観光まちづくり分科会

まちを楽しむ体験プログラム－観光大使30万人プロジェクト－

市民へのメッセージ MESSAGE

地域の暮らしぶり、受け継がれてきた食文化、伝承のまつりや民俗、秘められた歴史の物語、産業遺産や産業文化など、その地域の人々にしか伝えられない地域資源が岡崎には山ほど眠っています。個別に抱いているまちへの愛着を周りの人々に伝えるために、「体験プログラム」を企画からつくり、まちの魅力を発見し、伝え、つなげる案内役になりませんか。地域の人々から大切にされているまち、訪れてみたくなるまちは、一人ひとりの発信からつくられます。

目標 体験プログラムを通じて自発的な活動ができる状況をつくり、大衆観光に加えて、一人ひとりがまちの魅力、後世に伝えるべきモノ・コトを発信できるようにすること。案内人の関心や得意分野を活かした体験を「ひとつの岡崎の魅力」として見せる。

時期 プログラムごとに設定

主体 まちの魅力を伝えたい地域の人

[1] 岡崎市指定文化財(寺社仏閣や絵画など)の体験プログラムへの活用の協力。
[2] 地域の人々に発信するための市情報発信(市政だよりなど)との連携。

事業概要 PROJECT

市民が主体となって考え、想いをぶつけ、実際にやってみる舞台は整った。

あなたのやる気とアイデアを携えて、この舞台に上がりませんか。

最終発表会での市長・専門家のコメント COMMENT

B かわまちづくり分科会

乙川利活用提案プロジェクト(公募事業)

市民へのメッセージ MESSAGE

ほとんどの市民にとって「ただの景色」になってしまった乙川を、いろんな思い出の詰まった「ふるさとの原風景」となるよう、大人も子どもも本気でワクワクする使い方を募集し、夏から秋にかけて集中的に実施します。普段やっていることを河川敷や水上でやってみませんか。

あなたの活動やアイデアで、乙川により素敵な景色が生まれ出されます。

目標 乙川を僕らの手に取り戻そう!!

- 水辺の身近な使い方を模索し、扱い手の輪を広げること

時期 2016年4月(予定)プロジェクト公募 | 5月(予定)研修 | 7-9月(予定)プロジェクト実施

主体 乙川リバーフロント地区かわまちづくり活用実行委員会
[事務局:岡崎まち育てセンター・りた]
連携事業 観光船運航事業等【岡崎活性化本部】

[1] 利活用提案プロジェクトの実現に向けた愛知県との調整。
[2] 乙川艇庫(太陽の城跡地)を活動拠点として活用するためのトイレ設置(仮設や災害用でも可)の検討。
[3] 市長もぜひ乙川利活用プロジェクトにご応募ください!

事業概要 PROJECT

市長へのお願い・提案 SUGGESTION

WORKSHOP

2015.10.25-

OTOGAWA GRAND DESIGN Log Vol.2

C 人道橋・中央緑道・籠田公園分科会

市民ワークショップと専門家による公開検討会の連動開催

市民へのメッセージ MESSAGE

体験プログラムは、身边にあるまちや歴史の面白さを認識し、人に伝える練習になります。やりっぱなしではなく来場者の興味や満足度を評価し、向上していく事務局運営が重要です。その仕組みづくりのために行政へ協力を仰ぐこと、運営機能を向上するためにも体験プログラムを有料にする必要かもしれません。体験プログラムの中で誰かの話を聞いたり、ご飯を食べたりする場所も必要で、新しいまちの扱い手の発掘にもつながるかもしれませんね。

泉

岡崎市内には国指定文化財の建造物が名古屋よりも多い13件もあるのですが、あまり知られていない。市内に点在して眠っている観光資源を掘り起こし、観光バスで巡回できるまちづくりにもつなげられるように市としても努力していかたい。

これまでの市から発信される一方的な情報発信だけではなく、市民の活動と連携して双方向の発信について検討していかたい。

内田

事業概要 PROJECT

市長へのお願い・提案 SUGGESTION

東岡崎駅から人道橋・中央緑道・籠田公園の連続性、ストーリー性をつくり、まちへの回遊動線を生み出すことが大切です。平成28年度から着手されるセントラルアベニューの整備計画において、地域住民や利用者、管理者の声を反映するための「利活用ワークショップの開催」と良質な都市空間を形成するための客観的かつ専門的な視点を交えた「公開型の討論会」を実施します。

目標 時代と世代と記憶をつなぐ場所へ一につくり、共に活かす

- 都市と生活者の両側面から課題を解決する整備方針をつくる
- 市民、行政、専門家が将来の姿を共に描き、具体的な設計につなぐ

時期 2016年春から秋にかけて

主体 これから人道橋・中央緑道・籠田公園を利活用する住民、市民、事業者など
[運営コーディネート:岡崎まち育てセンター・りた]

連携事業 あいちトリエンナーレ2016連携事業、リノベーションまちづくり事業

[1] 中央緑道に既存するヒマラヤスギを極力活かした緑道を検討し、整備条件や状態を整理してから最終判断する。
[2] 中央緑道に回遊動線をつくるため「歩行者空間の拡大」。
[3] 中央緑道に最適な四天王像の配置を検討。
[4] 市民が集い憩う籠田公園とし、民間事業者による公共空間の活用促進、維持管理を実現するための官民連携体制の構築。
[5] 市民や観光客が憩い併む広場機能、日本全国に発信する新たな観光名所として、人道橋に橋上建築を検討。
[6] 景観、時代、維持管理を考慮した人道橋の高欄デザインを提案。

内田

D にぎわい創出分科会

乙川につながるにぎわいストリートの形成

市民へのメッセージ MESSAGE

乙川リバーフロント構想では、以前より河川管理者である愛知県と調整などをしており協力的な対応です。今後も利活用提案プロジェクトの実現に向けてしっかり働きかけたい。

内田

以前の大坂も一緒でしたが、道路や公園に比べて川辺や河川上は使えない場所だと思われていました。今は違う状況になっている。「かわまちづくり支援制度」によって都市の中を見捨てられてきた川辺や水上が使いやすくなったり、常設型のオープンテラス(殿橋テラス)の提案がありました。楽しめる定期的なスポットがあれば発信力が高まる。企業や市民がやっていた活動をまちのど真ん中の川辺や水上に持ち込む公募事業はチャンス!みんながチャレンジできる場所だということをどんどん発信していってほしい。

泉

東岡崎駅前地区は、現在「夜の街」として賑わっています。しかし、土日や祝日の昼間となると、空いているお店も少なく、来街者に十分なおもてなしができていません。観光産業都市岡崎の玄関口となるべく、歩行者で賑わう「昼の街」づくりに挑戦します。

2016年の重点地区は「龍海院通り」です。天下人の到来を予言したお寺の御利益にあやかりながら、岡崎の魅力づくりと一緒に進めませんか。

目標 東岡崎駅エリアに岡崎の顔となるにぎわいの場をつくること

- 定期的な歩行者天国事業の社会実験と公共空間の活用

時期 2016年8月14日から11月20日までの毎週日曜日(第3日曜日はスペシャル企画)、あいちトリエンナーレ2016や岡崎ジャズストリートとも連携予定

主体 (仮称)龍海院ストリート実行委員会

連携事業 まちなか活性化事業【株】まちづくり岡崎

[1] 歩行者天国の定期開催に向けた警察との協議などの支援。
[2] 休日の西三河総合庁舎の空きスペース、駐車場、トイレの協力を得るための県への働きかけ。(公共駐車場の利活用を社会実験的に実施)
[3] 私達は、三世代参加に向けて、保育園、竜海中学校、老人会への働きかけを始めます!

内田

中心部でイベントを行う際には警察との協議が必要ですが、以前と比べて理解頂けることが多い。事前に情報提供すれば定期的な歩行者天国にもご協力頂けるのではないかと思います。

西三河総合庁舎駐車場は、民間に管理委託され柔軟な利用方法も生まれると思います。管理の方法も含めて県に協力をお願いしてみたい。

内田

以前に比べて公有資産の利活用を国が推奨しています。龍海院ストリートに賑わいの軸ができるれば、殿橋周辺におけるかわまちづくりの活動と東岡崎駅との間に歩行者動線をつくることができ、その波及効果を中心市街地に広げていくことにつながる。龍海院ストリートの成功が中心市街地活性化のポイントになると思います。

藤村

PROJECT TIMELINE

2013 / 2014 / 2015

8

9

10

11

12

2016

2

3

プロジェクトのタイムライン

※タイムラインは順次更新・修正

平成25年度

- 岡崎活性化本部による乙川リバーフロント地区基本方針策定のための提言書発表
- 岡崎市による乙川リバーフロント地区整備基本方針策定

内田市長が公約で掲げた「乙川リバーフロント構想」の具体的検討に着手「重点施策の基本方針」「エリアテーマ毎の基本方針」「推進体制」などをまとめた方針。

平成26年度

- 乙川リバーフロント地区整備基本計画策定

平成27年度

おとがわプロジェクト 発足

【岡崎・乙川リバーフロントプロジェクト地区まちづくりデザイン事業】

観光産業都市の創造やコンパクトシティの実現に向けて、新人道橋、プロムナード、ライトアップなどの「ハード整備」、かわまちづくり支援制度等を活用した「ソフト事業」を基本計画としてまとめ、国・社会資本整備総合交付金に申請、採択された。

キックオフフォーラム開催

分節された政策や都市空間整備の仕組みの再統合を図る先導的事業として、民間主導の官民連携まちづくりにシフトチェンジ。

第1回シンポジウム開催

- デザインシャレット実施[パブリックミーティング2回]
- シャレット展示会開催

おとがわキャラバン in 市役所 開催 >>P2

第2回シンポジウム開催 >>P3

おとがわキャラバン in 箕面 開催 >>P2

中間提言発表

- まちづくりワークショップ[1] 開催 >>P4-7
- おとがわキャラバン in りぶら 開催 >>P2

- おとがわキャラバン in 中央緑道 開催 >>P2
- まちづくりワークショップ[2] 開催 >>P4-7

まちづくりワークショップ[3] 開催 >>P4-7

Vol.1

Vol.2

Vol.3

NEXT EVENT

グランドデザイン展示会

乙川リバーフロント地区のグランドデザインとは、岡崎の「経済と愛着の再生産」を目指すまちづくりの基本構想です。2015年7月のキックオフフォーラムから積み重ねてきた持続可能な都市経営に関する議論を踏まえ、本展示会では、これから市民と行政が一丸となって取り組むまちづくりのビジョンを明らかにします。

期間 3月14日[月]~3月29日[火] 8:30-17:15

土日祝休み

会場 岡崎市役所東庁舎1階ロビー

●参加申込不要、入場無料

BACK NUMBER

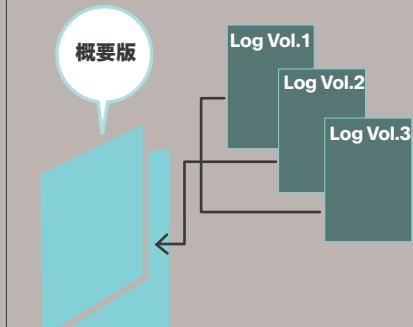


OTOGAWA GRAND DESIGN Log Vol.1

キックオフフォーラム、シンポジウム、デザインシャレット、中間提言書を収録

『OTOGAWA GRAND DESIGN Log』

平成27年度は全3回の冊子とグランドデザイン概要版の発行を予定しています。
各号もぜひお手元で保管下さい。



発行元：岡崎市

発行日：2016年3月6日

監修：NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

編集：浅野翔

デザイン監修：刈谷悠三・角田奈央/neucitora

デザイン：武村彩加

問い合わせ先：

NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

tel. 0564-23-2888

mail: otogawaproject@okazaki-lita.com

Facebook: 「おとがわプロジェクト」で検索